

福島市小鳥の森通信

しじゅうから

小鳥の森で観察してみよう109

ヤマガラ

分類 スズメ目 シジユウカラ科

住んでいる環境

・低地から山地の林

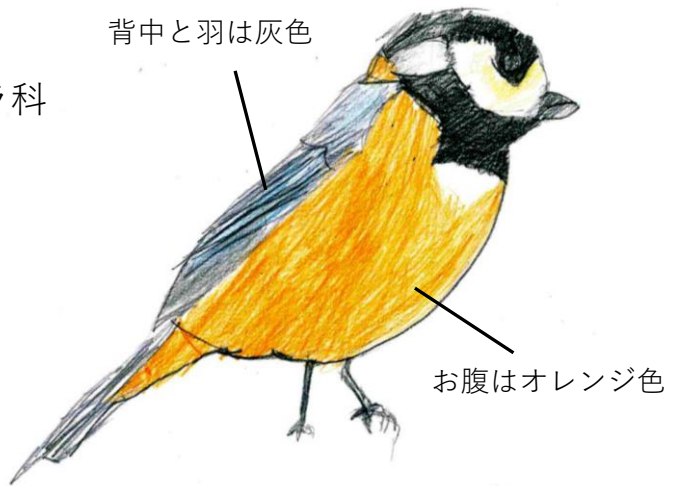
小鳥の森で見られる時期

・1年中

小鳥の森で見られる場所

・園内全域

背中と羽は灰色



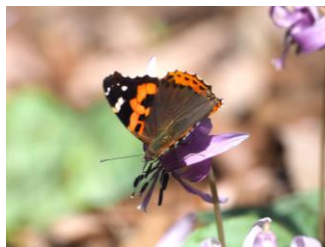
お腹はオレンジ色

相馬 芽生さん（10才）がかいてくれました。

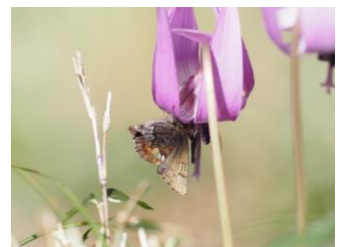
3月 いきもの森予報

3月はいろいろな生き物が活動を開始する時期になります。暖かい日が続くと真っ先に見られるのは、成虫の姿のまま冬越しをするルリタテハやアカタテハ、テングチョウなどのチョウたちです。次いで3月下旬にはミヤマセセリやコツバメなど、春にしか見られないチョウたちも姿を現します。ちょうどその頃はカタクリの花が咲く時期。昨年は暖冬の影響で、例年より早い3月中旬の開花となりました。ここ数年は雪の積もる年が少なく、比較的開花が早まっているように思います。しかし今季は10cmほどの積雪の日も何日かあった冬らしい冬。開花はいつになるでしょうか。

さて、このカタクリ、群生地では一面が薄紫色になるほど咲くため、多くの方が鑑賞に訪れます。訪れるのは人だけでなく、たくさんの昆虫も。カタクリの蜜（みつ）は、春に眠りから覚めた昆虫たちにとっては貴重なごちそうなのです。先ほど紹介したチョウたちをはじめ、ハチやアブなどが蜜を求め、カタクリ群生地はとてにぎわいます。運が良ければ、早春にしか見られないカタクリとチョウの共演に出会えるかもしれません。

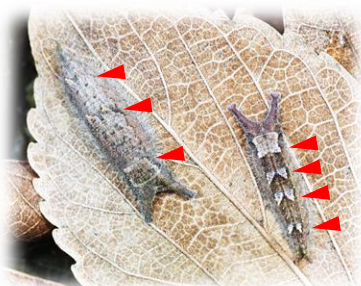


アカタテハ



コツバメ

2月に入り暖かい日も増えてきましたが、エノキの木の下では落ち葉の裏に身をひそめ、いろいろな生き物が冬越しの真っ最中。エノキで見られる昆虫の代表でもあるオオムラサキやゴマダラチョウの幼虫も確認できました。成虫どうしは全く違う姿をしていますが、幼虫たちはよく似ています。見分けるポイントは背中にある突起（とっき）の数。オオムラサキは突起が4対でゴマダラチョウは3対です。冬が近づくと枝先から木の根元に降り、落ち葉の下で新しい葉が芽吹くまでじっと過ごします。



ゴマダラチョウ(左)とオオムラサキ(右)の幼虫



ツグミ

幼虫を探すためにひたすら木の根元の

落ち葉をひっくり返してチェックしていると、同じように虫やクモなどのエサを探すツグミ類の気持ちがわかったような気がします。人が同じ作業をすると苦勞のわりにほとんど見つからず効率の悪い探し方になりますが、彼らにとってはそんなことはないのでしょうか。

スタッフだより

オオイヌノフグリ

明治の初めにヨーロッパから日本に伝わった外来植物です。早春に日当たりの良い土手などに小さな青い花を咲かせ、春の訪れを知らせてくれます。別名は「瑠璃唐草（るりからくさ）」や「星の瞳」など。こちらの方が姿と一致しますね。

花はとても短命でほとんどが1日で終わってしまいます。このような花を「一日花」と呼びます。それでもたくさんの種を作ることができるのは、次々に花を咲かせ、昆虫たちが花粉を運んでこなくても自らの花粉で種を作ることができるからです。

どこにでも咲いているオオイヌノフグリですが、調べてみると新たな発見がありました。



レンジャー ながと まゆみ

出前講座のご案内

小鳥の森では、市内の学校や学童保育など様々な団体向けに出前講座を実施しています。

森の話や自然素材を用いた工作など多様な講座内容を用意しております。季節や人数、活動時間に合わせたプログラムの作成、組み合わせも可能です。

受付は先着順に行っていますので、希望日の2週間前までに電話かFAXにてお申し込み下さい。

新型コロナウイルス感染症対策（三密（密閉・密集・密接））の回避、マスク着用、手洗い・手指の消毒、人との距離の確保（最低1m）等を講じた上での実施となります。



出前講座の様子

* 小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページで**カラー版**をご覧ください。

* 園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2021年3月号No.420／企画・発行：福島市小鳥の森／日本野鳥の会ふくしま